

新規事業採択時評価結果（平成30年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：村山 一弥

事業の概要

事業名	一般国道42号（近畿自動車道紀勢線） 串本太地道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県東牟婁郡那智勝浦町八尺鏡野 至：和歌山県東牟婁郡串本町鬮野川	延長	18.4km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道42号は、静岡県浜松市を起点とし、紀伊半島の沿岸部を通過して和歌山県和歌山市に至る延長約520kmの主要幹線道路である。</p> <p>串本太地道路は、一般国道42号のバイパスとして、和歌山県東牟婁郡那智勝浦町八尺鏡野から和歌山県東牟婁郡串本町鬮野川に至る延長18.4kmの自動車専用道路である。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>串本太地道路は、すさみ串本道路（事業中）や那智勝浦道路と連続し、紀伊半島沿岸部における大阪府から和歌山県南部地域を結ぶネットワークの一部を形成。</p> <p>救急医療活動の支援、地域相互の振興と発展に寄与するほか、台風時の越波による通行規制箇所の回避、南海トラフ巨大地震等の災害時における救命・救急活動に寄与するものである。</p>					
全体事業費	約900億円	計画交通量	約9,000台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

【和歌山県知事】
 一般国道42号（近畿自動車道紀勢線）串本太地道路の予算化について同意するとともに、心から感謝申し上げます。県としては、現在沿線の自治体が進めている地籍調査に最大限努力するとともに、これら沿線の自治体と連携して、円滑に事業が推進されるよう用地取得や地元調整などの環境整備に幅広く主体的に取り組んでいきますので、平成30年度新規事業としての予算化に特段の配慮をお願いします。

学識経験者等の第三者委員会の意見

・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件

・費用対便益：便益が費用を上回っている
 ・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H25.4.16）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.4 (0.7)	総費用 3,001億円 （事業費：2,754億円 維持管理費：247億円）	総便益 4,304億円 （走行時間短縮便益：3,867億円 走行経費減少便益：339億円 交通事故減少便益：98億円）	基準年 平成29年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2（交通量 -10%）	B/C=1.7（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.3（事業費 +10%）	B/C=1.6（事業費 -10%）	
		事業期間変動	B/C=1.1（事業期間 +20%）	B/C=1.6（事業期間 -20%）	
事業の影響	評価項目		評価	根拠	
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	・注目すべき影響はない。	
		事故対策	—	・注目すべき影響はない。	
		歩行空間	—	・注目すべき影響はない。	
	社会全体への影響	住民生活	◎	・第3次救急医療施設への搬送時間を短縮するとともに60分圏域が拡大 古座川町役場～南和歌山医療センター間：約70分→約49分（21分短縮） 東牟婁地域の南和歌山医療センターへの60分圏域人口 ：約11.3千人→約20.1千人（8.8千人増）	
		地域経済	◎	・代替路の確保により、災害時における安全性、信頼性が確保され、地域間連携を強化	
		災害	◎	・津波浸水予測区域を回避することを基本とし、最大津波高を考慮した十分な高さを確保することにより、災害時における安全性・信頼性確保 ・津波発生時の一時避難場所として活用するため、法面避難階段等を設置し、地域の避難活動を支援	
環境		—	・注目すべき影響はない。		
地域社会	◎	・線形が厳しい箇所、防災点検要対策箇所を回避するため、安定した交通を確保し、和歌山県南部の地域間連携を強化 線形が厳しい箇所：（現況）45箇所 →（整備後）0箇所 防災対策要対策箇所：（現況）27箇所 →（整備後）0箇所			
事業実施環境	○	・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H25.4.16） ・和歌山県知事より、近畿自動車道紀勢線（串本～太地間、新宮～新宮北間）の新規事業化を要望			

採択の理由

費用便益比が1.4と便益が費用を上回っているとともに、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、南海トラフ巨大地震等の災害時における安全性・信頼性の確保、第3次救急医療施設への速達性の向上等、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上により、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※B/Cの上段の値は、和歌山JCT～勢和多気JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果

新規事業採択時評価結果（平成30年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
<p>串本太地道路は、那智勝浦道路や事業中のすさみ串本道路と連続し、和歌山県南部地域の道路ネットワークが強化され、救急医療活動の支援、地域相互の振興と発展に寄与するほか、台風時の越波による通行規制箇所の回避、南海トラフ巨大地震等の災害時における救命・救急活動に寄与するものである。</p>		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・国道42号が唯一の幹線道路であり、南海トラフ巨大地震の発生時には、津波が約3分で来襲することにより、約8割の区間が浸水し、通行不能となると予測 ・国道42号沿線集落の方々（約1.1万人）の災害時の救命・救助活動が課題 ・国道42号は、台風などによる越波や大雨による通行規制が過去10年間（H18～H27）で61回発生 	※関西広域地方計画（H28.3） ・災害時には「命の道」となる紀伊半島アンカールートを構成する近畿自動車道紀勢線や五條新宮道路をはじめ、高速道路等の整備を推進し、緊急物資の集積拠点となる港湾の太平洋側・日本海側2面活用を見据えた機能強化により、応急復旧対策のための多重性、代替性備えた輸送ルートを確保する。
住民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県南部地域から最寄りの第3次救急医療施設へ60分以内に到達できる人口は、現況で約3割（11.3千人）であり、古座川町役場から70分かかるなど、搬送時間の短縮が課題 	※関西広域地方計画（H28.3） ・どこにいても高度医療や救急医療を迅速に受けられる環境を構築するため、救急搬送に欠かせない高速道路ネットワークの整備、医療資材や人材確保の連携強化、ドクターヘリの活用を推進する。
地域経済 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・国道42号は線形の厳しい箇所や防災点検要対策箇所が多く、安定した交通が確保されていないため、和歌山県南部の地域間連携に支障 	※和歌山県長期総合計画（H29.4） ・高速道路の整備効果を県内全域さらには近畿全域へ波及させるため、高速道路の整備に合わせ、府県間道路や直轄国道の整備を推進するとともに、県内主要都市間つなぐX軸ネットワーク道路や川筋ネットワーク道路をさらに強化するなど、高速道路と内陸部との連携を図る幹線道路網を整備します。
その他	—	

事業の有効性									
<p>・当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価がDランク→Cランクに改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。</p> <p>・また、本事業において、災害時にも機能する信頼性の高い高速ネットワークが形成されるとともに、医療アクセス負担の軽減、地域の安全・安心の確保、速達性向上による観光の活性化への貢献など有効性の高い事業と評価する。</p>									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	和歌山県庁	新宮市	49 (11)	0.95 [C] 〔1.00 [D]〕	0.77 [C] 〔0.83 [C]〕	▲1610.87 (▲258.80)	0.20 (0.09)	0.22 (0.18)	○

事業の効率性
計画段階評価手続き完了（H25.4.16）

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は和歌山JCT～勢和多気JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果